

第73回中国四国産科婦人科学会評議員会議事録

評議員会： 2021年9月19日（日） 午前7：40 - 8：20

於：WEB会議（ZOOM）

出席者： 会長 増山 寿（岡山）

理事 岩佐 武（徳島） 金西 賢治（香川） 京 哲（島根）

工藤 美樹（広島） 下屋浩一郎（岡山） 杉野 法広（山口）

前田 長正（高知）

監事 江尻 孝平（岡山） 金重恵美子（岡山）

幹事 鎌田 泰彦（岡山） 早田 桂（岡山）

評議員 泉谷 知明（高知） 伊藤 隆志（鳥取） 栗岡 裕子（島根）

近藤 裕司（愛媛） 坂本 康紀（高知） 伊達健二郎（広島）

田中 宏和（香川） 谷口 文紀（鳥取） 田村 博史（山口）

土谷 治子（広島） 中塚 幹也（岡山） 中西 慶喜（広島）

中村圭一郎（岡山） 花岡有為子（香川） 林 和俊（高知）

平田 英司（広島） 藤田 卓男（香川） 藤野 俊夫（山口）

前川 正彦（徳島） 松原 圭一（愛媛） 三好 博史（広島）

村上 朋弘（広島） 安井 敏之（徳島） 矢野 浩史（愛媛）

山本 暖（広島） 横山 幹文（愛媛）

（欠席者：杉山 隆，原田 省，

岩部 富夫，金崎 春彦，竹谷 俊明，中山健太郎，沼 文隆，

長谷川雅明，春名 充）

会長挨拶：

増山会長より，評議員会開催の挨拶があった。

増山会長：今回学術講演会ならびに総会を開催させていただくこととなり，ありがとうございます。昨年はコロナ禍で1年間延期とさせていただくこととなり，今回は現地開催でと準備を進めて参りましたが，残念ながらコロナが終息せず，急遽オンラインでの開催となりご迷惑をお掛けしました。一般演題には104演題の登録があり，480名の参加登録を頂いております。昨日は慶應義塾大学の青木先生による卵巣がんに関する特別講演がありました。その他にも教育講演，ランチョンセミナーが計8件，指導医講習会，また教室員が企画しまし

た、がんゲノム、死戦期帝王切開、災害医療といったシンポジウム、ワークショップを準備いたしました。本日もどうか宜しくお願いいたします。

報告事項：

- 1) 増山会長より指名を受け、鎌田幹事より令和2年度会員数および会費納入状況、令和3年度会費納入状況、会誌発行状況について報告があった。

質問等、特になし。

- 2) 増山会長より、本年度の学会賞（八木賞）に、三宅おおふくクリニック（岡山県）の宮木康成先生から応募があったことが報告された。

前田理事より、学術委員会にて厳正に審議され、全会一致で学会賞にふさわしいと決定した旨が報告された。

- 3) 増山会長より、令和3年度臨床公募研究に、岡山大学の松岡敬典先生より「進行・再発卵巣癌における PARP 阻害剤維持療法に伴う副作用発症リスクの検討」に関する応募があったことが報告された。

前田理事より、学術委員会で慎重に検討した結果、研究内容についていくらか検討すべき事案があったこと。これらについて検討した上で brush up したものを、後日通信理事会で再度審議したうえで、助成につき最終決定することとなった旨が報告された。

質問等、特になし。

協議事項：

- 1) 令和2年度決算書

増山会長より指名を受け、鎌田幹事より令和2年度会計の報告があった。

収入の部は、過年度会費も含めて、1,272名の会員より計6,360,000円の会費納入があった。機関誌収入の掲載料が2,608,914円であった。昨年総会で承認された通り、学術基金から学術支援費として、『現代産婦人科』のオンライン投稿・査読システムの年間使用料として35万円と、オンライン化に伴う学会ホームページ改訂費用の15万円の計50万円を拋出した。小計が9,714,105円で、前年度繰越金と合わせて18,650,685円が収入合計となる。

支出の部は、新型コロナウイルス感染症のために学術講演会・総会が1年延期となったので総会費の支出はなし。機関誌刊行費は6,957,989円。なお『現代産婦人科』のオンライン投稿・査読システムの年間利用料は投稿数60編で345,910円（税込）であったが、投稿数が不採録や審査中のものも含めると計86編あり、超過料金が発生している。学会賞は該当

なし。2名の名誉会員を表彰した。公募研究助成金は該当なし。Plus One 産婦人科セミナーは、同様に開催延期のため支出はなし。以上より小計が 8,399,734 円で、繰越金が 10,250,951 円であると説明がなされた。

江尻孝平監事より監査報告があった。

そして令和2年度決算書は、全会一致で承認された。

2) 令和3年度予算案

鎌田幹事より報告があった。すでに各財務委員からの承認を頂いている旨が伝えられた。

収入の部については、今年度の会費納入の義務のある会員数は 1,277 名で、会費納入率は例年 99%以上であること、また若干名の過年度会費納入と併せて考え 1,277 人分で計算した。また機関誌収入について、刊行協力費は例年厳しく 25 万円を、掲載料は過去 5 年間の投稿件数および 1 編あたりの掲載料より 185 万円を計上した。学術基金からの学術支援費は、学術講演会・総会の開催費支援の増額分である 50 万円、公募臨床研究支援費の増額分である 70 万円、『現代産婦人科』のオンラインシステムの年間使用料である 35 万円、そして昨年の総会で承認された学会ホームページの全面改訂費用（スマホ対応）の 120 万円の計 275 万円を計上した。利息は昨年同様で策定した。小計が 11,285,000 円で、前年度繰越金と合わせて 21,535,951 円が収入合計である。

支出の部については、総会費は令和元年度の総会で承認された通りに 200 万円とした。機関誌刊行費は過去 5 年間の投稿論文数を参考に印刷費を 390 万円、発送費は昨年同様に 35 万円とした。オンラインシステムの年間使用料は投稿数 60 編として 35 万円を計上した。委員会費はオンラインでの開催となるが、一応例年通りとした。学会賞費は例年通り 3 万円とした。名誉会員表彰費は 3 名分計上した。管理費は例年通りとした。ホームページは学会ホームページの全面改訂費用（スマホ対応）120 万円、およびサーバーレンタル料、メンテナンス料として 15 万円を計上し、計 135 万円とした。公募研究助成金は、令和元年度の総会で承認された通りに 100 万円とした。Plus One 産婦人科セミナーは 100 万円を上限に予算を計上した。小計が 12,470,000 円で、予備費と合わせて 21,535,951 円が支出合計であると説明がなされた。

そして予算案は、全会一致で承認された。

3) 次期および次々期開催の件

前田理事から、来年の第 74 回は高知大学が担当させていただき、2022 年 9 月 17, 18 日に高知市の高知県民文化ホール、ザ クラウンパレス新阪急高知での開催を予定し準備しています。プラスワンセミナーは南海トラフ地震を想定した災害救急でのトリアージ。指導医講

習会，共通講習，領域講習のほか，教育講演として再生医療について企画しています．現地開催でお迎えできればと思いますとの挨拶があった．

第75回（2023年）担当の島根大学の京理事からは，開催地を松江にするか出雲にするかこれから検討しますとの挨拶があった．第76回（2024年）担当の徳島大学の岩佐理事，第77回（2025年）の担当に決定した山口大学の杉野理事からそれぞれ挨拶があった．

4) 役員交代について

増山会長より指名を受け，鎌田幹事より報告があった．次期会長は前田理事に交代し，各役員の交代についても別紙に記載の如くとなり，任期は2021年9月20日から2022年9月18日までとすることが報告された．

5) 名誉会員推戴について

増山会長から，徳島産科婦人科学会より苛原 稔先生の推薦があったことが報告された．苛原先生の名誉会員推戴については，全会一致で承認された．

6) プロジェクト Plus One 産婦人科セミナー収支報告について

増山会長から，令和2年度はセミナーの開催がなかったことが報告された．

7) 学会ホームページの全面改訂（スマホ対応）について

増山会長より指名を受け，鎌田幹事より報告があった．

鎌田幹事：会員からの学会ホームページへのアクセス向上のため，学会ホームページをスマホ対応にして全面改訂することにつき，昨年の本会および総会でご承認いただきました．そこで今回は，ホームページを運営している友野印刷株式会社からのリニューアル案を呈示いたします．見積金額は約112万円と昨年の本会資料として呈示いたしました．これからホームページ作成に取り掛かりますが，それに際してのご提案やご意見等ございましたら，事務局までメールや電話等でご連絡いただければと思います．WEB構築に反映させていただければと存じます．

増山会長：特に意見が無いようでしたら，スマホ向けのホームページ改訂はそのまま進めさせていただければと思います．

特に異議無く，原案通り承認された．

8) 医師・医学生以外からの本学会入会希望について

増山会長より指名を受け，鎌田幹事より報告があった．

鎌田幹事：この1年間に，一般の方（医師・医学生以外）からの本学会への入会問い合わせが数件，事務局にございました．大きく分けて，①本学会活動に興味があり入会したい，②「現代産婦人科」に投稿したい，のいずれかでした．

①ですが，会則では第2条に，「中国四国9県の産科婦人科学会の会員であること」と記さ

れています。また日産婦学会では、学生・初期研修医は各県の産科婦人科学会を通じての入会となっています。他科の医師の入会も同様かと存じます。しかし一般の方の入会については、日産婦ホームページにも記載がございません。もし助産師や薬剤師等で入会を希望された場合、事務局として今後どのように取り扱うべきなのか。

②ですが、中国四国で研修中の本学会非会員の産婦人科医師および他科の医師（病理医や内科医など）は、単年度会費を納入することで「現代産婦人科」への投稿が可能となっています。実際には筆頭著者の先生が支払われていることが多いようです。なお学生・初期研修医は、単年度会費の納入なしでの投稿が可能となっています。医師でない助産師、胚培養士、臨床心理士などから「現代産婦人科」への投稿を希望されることが今後あるかと思いますが、事務局の対応としてどのようにすればよいのか。

以上につき昨日の理事会で協議いたしました。

①の本学会入会については、会則通りに、まずは各県の産科婦人科学会の会員になっていただく。そうすることで本学会の会員資格を得るということが確認されました。入会希望者の職種等の個別の案件については日産婦本部と相談しながら各県で決めていただくようお願いいたします。

②の論文投稿につきましては、学会としては多くの論文を投稿してもらった方がいいし、それに関与した先生の業績にもなりますので、医師でない方が単年度会費を納入して共著者になることを認めることに決定しました。そして投稿規程の「ただし非会員の医師名を掲載する場合は、単年度会費を事務局に納入する。」から「医師名」を外して、「ただし非会員を掲載する場合は、単年度会費を事務局に納入する。」と改訂することとなりました。

増山会長：宜しいでしょうか。今後は投稿規程をそのように改定して運用してまいります。ありがとうございました。

特に異議無く、原案通り承認された。

9) 川崎医科大学産婦人科学2 特任教授 太田博明先生の中国四国産科婦人科学会でのお立場について

増山会長より指名を受け、鎌田幹事より報告があった。

鎌田幹事：日本産科婦人科学会の名誉会員であられる太田博明先生が、この度、川崎医科大学にご着任されました。岡山産科婦人科学会に入会され、同時に中国四国産科婦人科学会に入会されるとのことで会費を受け取りましたが、本会の内規第4条3)に、「日本産科婦人科学会名誉会員および功労会員は合同地方部会名誉会員となる。」とあります。会費を徴収すべきかどうか、また名誉会員の名簿にお名前を入れてよいものかどうか事務局では判断がつかないため理事会に諮りました。

協議の結果、会則にも「中国四国産科婦人科学会に対しとくに功績のあった会員を名誉会員とする」とありますので、名誉会員としては推戴せず、会費の免除だけを行うということで決定いたしました。したがって受け取った会費は事務局より返納することといたします。

増山会長：本会の内規第4条の「合同地方部会名誉会員」は間違っておりますので、来年になりますが、この条項については修正したものを諮らせていただきます。

特に異議無く、原案通り承認された。

10) その他

鎌田幹事より、「現代産婦人科」編集委員会の投稿・査読状況につき発言があった。

鎌田幹事：「現代産婦人科」のオンライン投稿・査読システムは順調に稼働しております。

観察研究のIRB、施設内倫理委員会審査を経た上での投稿につきましても、最近はほぼなされているものと思います。保険適用外の症例に対する腹腔鏡下手術は、がんの症例ですが、一例報告なのでIRB承認は要求しないものの、雑誌として掲載するのはいかがかというのが数件ございました。

工藤理事：今回コロナ禍で、学会開催までが大変であったかと思います。次回からは現地開催になるのかもしれませんが、増山先生より、今後学会を開催するにあたり何かアドバイス等あればお聞かせください。

増山会長：今回はギリギリまで現地開催の予定で学会準備を進めてまいりましたが、コロナの状況でやむを得ずWEB開催となりました。学会参加費につきましては、どちらになってもよいようにオンライン決済とし、会費も1万円に値上げさせていただきました。ハイブリッド開催は経費が倍かかるので、この規模の学会では難しいと思われました。次回以降に学会を開催される先生におかれましては、私共でできることがございましたら是非とも協力させていただきますのでご相談いただければと思います。

増山会長より閉会の辞あり、閉会。

以上